

おきあげ 沖揚音頭 ~湊魂を受け継ぐ唄~

湊地区の「沖揚音頭」について、湊沖揚音頭保存会男組

えのもとたかしくみがしら
榎本崇組頭にお話をうかがいました。



榎本崇組頭

○沖揚音頭とは

北海道でニシン漁が盛んだった時代に、八戸から出稼ぎに行った漁師たちが作業の息を合わせるために唄った「ニシン場作業唄」を地元を持ち帰り、祝い唄にアレンジしたものです。

結婚式などの席で唄われ、湊だけではなく、他の地域にも伝わっていますが、節まわしや歌詞が少しずつ違い、それぞれに個性があります。

○保存会設立のきっかけ

平成13年、14年の新年互礼会で、祝舞の代わりとして10人ほどを集めて唄ったのが保存会のはじまりです。段々と覚えている人たちが減ってきている中、地域の伝統としてしっかり残していきたいと考え、平成14年7月に設立しました。現在の会員は50代から70代の21人です。

○住民の心に根付いた唄

沖揚音頭には、漁師の魂が込められ、地元住民の心に根付いています。

神社のお祭りやイベントで唄うと、会員以外でも唄を覚えている人たちが参加し、とても盛り上がります。その様子を見て感動し、入会した方もいます。

○代々受け継がれていくことを目標に

保存会として地域の各行事に参加しながら、小中学校でも沖揚音頭を教えています。今では湊小学校では学習発表会で、湊中学校では1年生が文化祭で披露しています。

この唄を学ぶことで、子供たちに湊地区の歴史に触れてもらい、郷土への愛着を持ってもらいたいと考えています。将来的には若い世代が保存会へ参加したり、行事で唄ったりすることで、更にその次の世代へも受け継がれていく唄になるように、今後も活動を続けていきたいと思っています。



沖揚音頭